

食品安全委員会設立5年目に向けて

食品安全委員会委員長
見上 彪



食品安全委員会は、この7月1日に設立5年目に入りました。これまでの間、リスク評価の実施やリスクコミュニケーションに積極的に取り組んでまいりました。

さらに、5年目を迎えた今後は、ポジティブリスト制度の導入等に伴い増大している評価案件に着実に対応するとともに、我が国に輸入される牛肉等や食中毒原因微生物に係る自らの判断で行う評価、食品健康影響評価技術研究など主体的な取組についても積極的に実施してまいりたいと考えています。

同時に、様々な手段を通じた適時適切な情報発信の強化、更なるリスクコミュニケーションの推進にも努めてまいります。

新委員挨拶

食品安全委員会委員
廣瀬 雅雄



この度食品安全委員会委員に任命されました廣瀬でございます。

私は3月まで国立医薬品食品衛生研究所の病理部で主に食品添加物、農薬、環境化学物質、健康食品等の発がん性や毒性についての試験研究、それに加えて、安全性評価に9年間携わって参りました。

今後はこれまでの知識を生かして、食品の安全、さらにリスクコミュニケーションに尽力して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

食品安全総合情報システム(データベース)をご利用下さい

HP <http://www.ifsis.fsc.go.jp/fsilv1/do/FSILogon>

食のグローバル化や新技術の開発などにより、私たちの食生活を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。私たちの周りには世界各国からのあらゆる食品があります。また、マスコミ等を通じて食に関する様々な情報があふれています。このため、食に関する情報に、必要以上に不安を感じてしまうことがあるのではないのでしょうか。

食品安全委員会では、食品の安全性の確保に関して、国内外のリスク評価やリスク管理の取組の情報を収集しています。また、食品安全委員会、専門調査会などの配布資料・議事録、危害要因についてのファ

クトシート、委員会の行った評価案件、専門用語解説、Q&Aなどの食品安全委員会が蓄積してきた膨大なデータ・情報を、データベースとして構築しています。このデータベースは食品安全委員会HPの右側にある入り口「食品安全総合情報システム」から、どなたでもご利用いただけます。

例えば、知りたい危害要因をキーワードとして検索すると、国内外の最新のリスク評価、リスク管理の状況などの情報を簡単に入手できます。

食品の安全性について知識と理解を深めるために、ぜひこのデータベースをご利用下さい。



19年度食品安全モニター会議

食品安全委員会では、モニターの方々に委員会の取組やリスク評価の実際などについての知識や理解を深めていただくため、毎年、全国で食品安全モニター会議を開催しています。19年度は、5月から6月にかけて、全国7都市(札幌市、仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市)において計10回の会議を開催しました。

会議は三部構成で行われ、第一部では、委員会事務局より、リスク分析の枠組みと委員会の取組、食品安全モニターの活動について、第二部では、食品安全委員会委員より、委員会の行うリスク評価等の実際について、それぞれ説明及び質疑

応答を行いました。

また、19年度から新たに、第三部として、18年度から継続されているモニターの方々から、地域における活動についての発表をお願いし、意見交換を行いました。



●食品安全モニターとは

食品安全モニターは、全国470名の消費者の方々に、日常生活を通じて、委員会が行ったリスク評価の結果に基づいたリスク管理機関の取組の実施状況や、食品の安全性などについて意見・情報をいただき、委員会の取組の参考とするためのものです。また、モニターの方々には、委員会が提供する情報を地域へ広めるためのご協力をいただいています。

平成19年度からは、委員会の役割・活動などについて十分な知識をお持ちの方による継続的な活動を通じて、モニターの情報発信力の向上や活動の活性化を図るため、これまで1年だったモニターの任期を2年に延長し、1年毎に半数を改選する仕組みとしました。